

I 令和5年度 富士宮市立北山小学校 学校経営方針



1 学校経営目標

笑顔と信頼と誇りのある学校

○私たちは、北山小学校の子供たちが笑顔で通える学校にします。

笑顔のためには、まず、学校が楽しいところでなければなりません。

そのために、分かりやすい授業、友達との学び合い、たくさんの体験活動、盛り上がる学校行事、一人一人が活躍できる場などを私たちは提供します。

次に、学校は安全・安心な場所でなければなりません。

子供たちが周りの人にいたずらに傷つけられることがないよう、集団を育て、困ったことがあったらすぐに教師に相談できるような体制をつくります。いじめや不登校のない学校にします。他人の笑顔を奪うような行為に対して厳しく指導もします。

もちろん、笑顔のために毎日をおもしろおかしく生きていこうということでは決してありません。たとえば、アスリートたちがやりきったときに見せる笑顔は特に美しく感じるのはなぜでしょう。その笑顔には、歯を食いしばって、つらいことにもくじけずに耐え抜いた努力があるからこそ、輝きを感じるのです。できなかったことに何度か挑戦して、ついに成功させたとき、日常の笑顔とは違う心の中から沸きあがってくる最高の笑顔になるはずで
す。私たちは、子供たちがそんな笑顔になれるような負荷をかけていきます。もちろん、乗り越えられるハードルの高さは

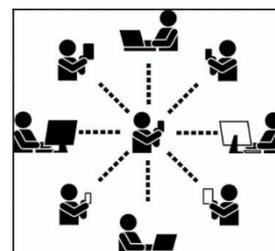


一人一人違うと理解し、個別に支援していきます。そして、成功体験を積み重ねて成長させていきます。

○私たちは、保護者や地域から信頼される学校にします。

「学校のことは先生に任せておけば間違いない。」そう思ってもらえる頼りがいのある教職員集団を目指します。

子供を指導するのが教師の仕事ですが、教師の価値観を押しつけるのではなく、子供を理解し、保護者の思いを理解し、適切な指導を行います。また、家庭との連絡を密にして、家庭と学校が共同して子供を育てていきます。地域の方々にも子供の育成に協力していただくよう、絶えず学校の情報を発信していきます。



残念ながら教職員の不祥事が続いています。私たちは、保護者や地域の皆さん、そして子供たちの期待を裏切らないように、不祥事を絶対に起こしません。

○私たちは、子供たち、保護者や地域の皆さんが誇れる学校にします。

北山小学校をみんなが自慢できる学校にします。たとえば、コロナ禍でも、新体力テスト優秀校の受賞をしたこと、常にオンライン授業が選択可能な状態にあることなど自慢できることは数々あります。地域の方は、新聞に北山小学校の名前が出ることを心から喜んで下さるので、私たちは、他校と違う魅力をたくさん創造し、発信していきます。ちなみに、令和4年度はホームページの閲覧回数が1年間で40万回以上もありました。



2 学校教育目標

自ら学び、人との関わりを大切にして、未来を切り拓く子

目指す子供像 「かがやく北山っ子」

「自立」自ら学ぶ力

「共生」自ら関わる力

「創造」自ら高める力

「北山っ子」は、毎朝どの子ども生き生きとしたあいさつをしてくれます。授業にも落ち着いて取り組み、自信を持って自分の考えを発言できる子がたくさんいます。他人に迷惑を掛けたり、傷つけたりすることもほとんどありません。コロナ禍でも、子供たちが活動を工夫して、休み時間も楽しく過ごしています。そんな子供たちですが、課題がないわけではありません。

1つめは、創造性を伸ばすことです。言われたことはしっかりできる子が多いけれど、

自分からやりたいことに取り組む主体性をもう少し伸ばしたいです。失敗を恐れず行動する勇気を育てていきたいと思います。そのためには、何かを一生懸命に覚える学びから、何かを創り出すことができる学びにシフトしていかなければなりません。クリエイティブな子供を育てるためにはどうしたらよいかを考えて取り組んでいきます。

2つめは、読解力(理解力)を伸ばすことです。物語を読んだけれど、主題を正しく読み取れていなかったり、話は聞いているけれど、理解できていなかったりすることが多くあります。それでは、読書しても面白くないし、教科書を読むのも嫌になります。読解力の低下が、学習の伸びを妨げていると考えられます。そこで、読む力を育てる方法を考えて取り組んでいきます。

3つめは、6年間で自立を目指すことです。忘れ物や宿題忘れをなくすこと、インターネットやゲームの誘惑に負けず、遊ぶ時間の自己管理ができるようになることを目指します。私たちの「忘れ物をしない」、「宿題を必ずやる」という指導は、子供たちに「自分のことは自分でやる」という自立を促す指導の一つです。

そこで、令和5年度の北山小学校の学校教育目標は、昨年度に引き続き「自ら学び、人との関わりを大切に、未来を切り拓く子」とします。短い言葉で言えば、「自立」「協働」「創造」です。

まずは、自分の力で課題を解決できる力を身に付けます(自立)。しかし、自分の力だけでは解決できない困難な課題もあります。そんな時は、他の人と力を合わせることが必要です(協働)。そして身に付けた力を活用して、先が見通せない時代も頼もしく切り拓いて、よりよい未来を創ってほしいと思います(創造)。

「学び」が変わります

かつて、授業は教師が主体的に一生懸命に子供たち知識を教えていました。その知識をたくさん覚えた子供が、テストでよい結果を出し、よい評価をもらってきました。しかし、その後の教育で知識よりも重視されるのは、考える力や表現する力に変わってきました。その考える力は、友達と対話をしていくことでどんどん深まってよりよい考えになっていきます。そして、自分の考えを相手に分かりやすく伝えるために表現力が重要とされてきています。さらに、この先の教育は、みんなで同じことを同じペースで学ぶのではなく、一人一人が自分で学習をデザインして、一番よいと思う自分に合った方法でそれぞれが学んでいくようになると考えられます。すなわち、学習の主導権が教師から子供に渡されるようになります。その時代(2030年)を視野に入れながら、北山小学校では「学び」を改善していきます。

さらに、デジタルとリアルの組み合わせによる「主体的、対話的で深い学び」の一体的充実を実現させていきます。(令和5・6年度富士宮市教育研究指定)

(1) 「自立」自ら学ぶ力・・・自分の力で課題を解決する子

○「読解力・語彙力」を育成します。

- ・音読上手を育てます。
- ・季節ごとに俳句づくりに取り組み、語感を育てます。
- ・読書の質を向上させます。

個別最適な学びになるよう、個人の力に合わせて、紙の教科書やデジタル教科書を選択して、多様な方法で音読できるように配慮します。音読や群読の成果を発表する場を設定するなどして、音読することや声を出すことに対する意欲を持たせていきます。

俳句は 17 音に季節の感動を込める言葉の魔法です。説明文にならないように、無駄な言葉をそぎ落として、語順を入れ替えて、聞く人に感動を伝えていきます。全校で認め合うことで俳句のレベルを上げていきます。

読書量を増やすために朝の活動に読書タイムを週2回(月・金)設定します。また、図書館の利用回数を増やし、月2回のひばり号でも本をたくさん借りるようにします。読み聞かせボランティアに協力していただき、本の楽しさを感じられるようにします。



○「問いを持ち追究する力」を育成します。

- ・きたやま学習を充実させます。
- ・「なぜ」「どうしたら」を考える学習課題を設定します。
- ・多様な追究方法を身に付けられるようにします。

毎日の授業の学習課題は、「なぜ～なのだろう?」「どうしたら…できるだろう?」などにこだわり、問題解決学習を進めていくことを基本にします。この学習方法が身に付けば、日常生活の中で感じる「?」を自分の力で追究できるようになります。この追究力を伸ばすことができるのが、「きたやま学習」です。教科書のない総合的な学習の時間は、自由に知りたい疑問を調べることができます。ここで、本やインターネットに頼る調べ方だけでなく、多様な追究方法を身に付けられるように指導します。それによって、子供たちは日常生活の?にも、主体的に調べて、自分



で学んでいくようになると思います。

○「一人学びできる力」を育成します。

- ・誰一人取り残さないよう個別に支援します。
- ・家庭学習の習慣の定着を目指します。

令和4年度の北山小は、富士宮市アクションプランから、「誰一人取り残さない特別支援教育の充実」に取り組みました。今年度も、個別最適な学びを実現するために、一人一人に合った課題や追究方法を支援します。そして、「一人でもできる」という学習の自立をめざしていきます。

家庭学習は、読み・書き・計算の基本的なものだけでなく、やりがいを感じる課題に取り組んでほしいと考えています。また、家で考えたこと、準備したことが生きるような授業を教師が構想します。授業で活躍できた喜びが、さらなる頑張りにつながっていきます。スタディアアプリも活用して、子供に力を付けるための授業や家庭学習を研究していきます。また、自主勉強は、テーマを決めず、子供の自由な発想に任せてやってみたいと考えています。

○「ICT活用力」を育成します。

- ・低学年…操作できる
- ・中学年…考えを入力できる
- ・高学年…工夫できる



北山小学校では、令和3年度から、GIGAスクール構想実現のため配付された一人一台パソコンを活用した授業に取り組んできました。子供たちは、あっという間に操作に慣れ、パソコンが文房具のように使用される日も現実的になってきました。低学年ではパソコンの操作に慣れる、中学年ではタイピングして自分の考えを入力できる、高学年では見栄えよく表現できることを目標にしていきます。

(2) 「共生」自ら関わる力・・・他者と協働して課題を解決する力

○「多様性を認める心」を育成します。

- ・1組も3・4・5組も学校全体でインクルーシブな教育を実現します。
- ・縦割り班活動で異学年交流をします。
- ・考え議論する道徳を実践します。

私たちの回りにはいろいろな考え方や立場の人がいることを、日常生活の中で学んでいきます。縦割り活動をすることで、自分より年齢が下の子への



優しさが芽生え、支援学級の子供と交流することで、他人の困難さを共感できるようになります。もちろん、LGBTQも尊重します。「みんなちがってみんないい」と思える環境をつくっていきます。

○「協働性」を育成します。

- 協働的な学びの場を設定します。
- 話し合い活動で折り合いの付け方を学びます。

コロナ禍で学校行事も制限されていますが、子供たちが協力することのよさを学ぶために大切なのは実体験です。そこで、協力を必要とする行事を重視します。例えば、運動会、修学旅行、林間学校、フェスタ北山などが考えられます。他にも、クラスごとに協力を必要とするイベントを企画して、協力したから成功したとか、協力したらこんなことができたという達成感を味わってほしいと思います。

その過程で、何度か話し合いをしますが、意見が食い違ったとき、対立したとき、そのまま平行線でいくのではなく、折り合いを付けることを学んでほしいと思います。

○「コミュニケーション力」を育成します。

- 授業の中で活発に対話をします。
- 山宮小とのオンライン交流をします。

教師が問い掛けると、子供たちは挙手をして発言をします。しかし、その発言は教師に向かって答え合わせを求めての発言で、1対1のやりとりで終わってしまうことが多いです。時には挙手にこだわらず、子供たちが自由に発言できるような授業を組み立てていきます。そのためには、教師が存在感を薄くし、子供たちだけで話し合いを進めていくようにします。「○○すればよいと思うんだけど、みんなはどう思う。」「それって、どういうこと?」「～ってことじゃない?」「いや、ちょっと違うんだよね。」「じゃあ、具体的に分かるように教えてよ。」こんなやりとりが学びを深めていくことになります。教師が正解を教えてしまったら子供たちの出番はありません。この時の、思考力と表現力を重視していきます。

また、固定されたメンバーならば安心して話せても、環境が変わると緊張して話せないということはよくあります。そこで、将来北山中で級友になるであろう、山宮小学校の子供たちと、オンライン交流を行っていきます。馴染みのない人たちにも堂々と意見が言えるように場を設定していきます。それを積み重ねていくうちに、山宮小学校の子供たちとも仲間



になり、北山中学校での生活が円滑に始められるようになると期待しています。

○「グローバルな視野」を育成します。

- SDGsに取り組む必要性を学びます。
- エコ活動に取り組みます。

ウクライナとロシアの戦争が始まり、日本にとっても他人事ではない世界情勢になりつつあります。他にも、環境問題など地球規模で災害が発生しています。自分たちのことでまだ精一杯の子供たちですが、SDGsの取組を知ること、視野を広げ、世界の課題に関心を持ち、自分事として考えられるようになってくれたらと思います。一人一人の力は小さいけれど、みんなの力を合わせれば、世界が変わるかも知れない、そんな可能性が感じられる取組を考えていきます。

令和4年度は、アルミ缶回収の収益金から、2万円をUnicefに募金しました。また、アジアの子供たちに、不要になったぬいぐるみを送りました。



(3) 「創造」自ら高める力・・・よりよい未来を創り出す子

○「主体性」を育成します。

- 子供が企画・運営するイベントを設定します。
- 「博士」「名人」をめざします。
- ボランティア活動や朝運動など頑張る子供を奨励します。

○「創造性」を育成します。

- 工夫した面白い係活動や委員会活動にします。
- 創作活動に力を入れます。

○「粘り強さ」を育成します。

- めあてや目標を設定して取り組み、達成度を自己評価します。
- 新体力テスト表彰を目指します。

「主体性」「創造性」「粘り強さ」を育てるのは、とても難しいことです。繰り返し練習して身に付くものでもないように思います。例えば、子供のやりたいようにやらせてみて、それを価値付けてあげることで、「楽しかった。」「またやってみたい。」「今度はこうしよう。」「あきらめないぞ。」という気持ちになると思います。宿題をなしにして、「やりたいことをとことんやる日」があったら、子供はどんなことをするでしょう。一日中、絵を描いたり、読書したり、料理をつくったり、レゴを組み立てたり、父親と釣

りをしたり、キャンプをしたり、サッカーの練習をしたり、好きなことなら主体的になるし、工夫もする、何時間でも根気強く集中するのではないのでしょうか。しかし、残念ながら今はまだ、一日中、ゲームをする、YouTubeを見るという子ばかりになってしまいうそうです。できれば、人がつくったもので楽しむのではなく、クリエイティブなことに取り組んでほしいのです。ゲームをつくる、映像編集をして動画をつくる側になってほしいと思っています。

まずは、児童会活動、委員会活動、係活動などから創意工夫してユニークな活動をしていきます。お楽しみ会も、入念な計画の基に行えば、主体性や創造性を伸ばす場になります。

新体力テスト2年連続で富士宮市から表彰されました。今年度も連続受賞を目標に掲げて、運動能力を高めていきます。



○「自己調整力」を育成します。

- 学びや生活の振り返りの時間を確保します。
- 生活時間を自分で管理できる力を付けます。

子供たちの周りには、誘惑がいっぱいです。ゲームや動画、テレビ、漫画…。

保護者からも、パソコンを持って帰ってきてゲームばかりしているという声が届きます。これからの時代を生きる子供たちは、たくさんの誘惑に打ち勝たなければならぬので、強い意志を持たなければなりません。自分のためになることを優先順位を付けて、自主的に取り組む力も必要になります。学校のルール、家族で決めたルールを守ろうとする気持ちが、社会のルールを守れる人を育てると思います。

このような取組で、北山小学校は

自ら学び、人との関わりを大切にして、未来を切り拓く子

を育てていきます。